

令和3年11月24日 柴田 恵理子 委員（カシオペア連邦）より

※ 審議会終了後、メールにて御意見をいただいたもの

【以下、メールより抜粋】

ボランティア活動がコロナ明けではなく

コロナ禍での活動を考えているのであれば下記のように考えていました。

◇課題2の県民一人一人が活動しやすい環境づくりについて◇

岩手県の人はとても真面目なので、岩手緊急事態宣言中のコロナで自粛するような生活から、コロナと共存しながら感染対策をしつつ活動をしていくという方向にはまだ心が動いていないと思います。やりたい事さえ我慢してる中、ボランティアを通して知らない人と会うのは大変ハードルが高いように思います。

コロナ禍でもボランティア活動しやすくするためには、そのボランティア活動の様子（どのような感染対策をしているか、換気、人との距離感など文言ではなく写真で）公開していくことが大切だと思います。また友人同士の会食でさえまだ自粛している方が多いので、昼食などを挟まない短時間の方が参加しやすいです。もしくは、距離をとりながら、クリアボードを挟みながら昼食や飲食を安心してとれる環境が準備できる活動でしたらその写真等も公開すれば、安全に活動ができるのであれば参加したいという方も多いと思います。なので資料No. 1-2 ページ1の短時間でも参加可能な活動や興味ある部分だけ参加可能というのはとても良いと思いました。

*コロナ自粛が長期に続けば多くの産業が疲弊していくと思うので、感染対策をしながら、動いて行こうという流れが県全体で生まれていったらと切に思います。